

「消えゆくツバメをまもろう」キャンペーンにご協力ください

6月上旬のある日、会事務所での夜の会合中に電話が鳴りました。出席予定者からの連絡かと受話器を取ったところ、ツバメのことで相談したいとの女性の声。勤務先で、巣が落とされ路上に捨てられていたとのこと。昨年も落とされヒナが死んでいたのに、管理者に抗議し、今年はそんなことがないように対処してくれることになっていたのに、悔しさをいっばいの声。場所が中央区の食品を扱う有名なところだけに、電話だけでは対応できないと現地におもむき、電話された方から状況を聞きました。どうも「ヒナや卵のある巣を撤去してはいけない」という法律を知らない人の仕業ではないかとのこと。幸い近くの別の場所で営巣しているツバメ夫婦を見つけ、関係者に糞の件で迷惑をかけるかもしれないがよろしくと頼むことができました。



この件で、昨年と同じ時期での話を思い出しました。場所は目黒区内の私鉄駅前から続く商店街のなか。通りに面したマンション1階の駐車場の2つの巣を、小学生がボールを投げて壊したとのこと。中のヒナを救いたいとの女性の声。そのマンションの協力は得られなかったものの、ヒナがだいぶ大きかったので、なんとか巣立ちをすることができましたが、今年も同じ事態が発生したと怒りの声。どちらも「心ない」行為で、単に法律だけを持ち出しても解決しない問題で、頭の痛いところ。心配なのは、そんな事例が増える傾向にあるということです。稲作文化における「益鳥」として、大事にされ、人の身近で営巣してきたツバメに、今さまざまな形で逆風が吹いています。

そんなツバメに対して、今年のバードウィークに〔公財〕日本野鳥の会（野鳥の会本部）は、「消えゆくツバメをまもろう」キャンペーンを始めました。それに呼応し、研究部でも都内のツバメの現状について積極的に調べていきたいと思えます。個々の営巣については、野鳥の会本部へ各自でご報告ください（※）。研究部では、下の観察のように、ある程度まとまった報告を扱いたいと考えています。身近な鳥・ツバメの危機、みなさんと一緒に対応していきましょう。その第一歩としてご報告ください。

※ 詳しくは、『野鳥』2012年6月号をご覧ください。インターネットで「日本野鳥の会 ツバメ」で検索すれば、関係するサイトと見つけることができます。

★2ページの「ツバメの全国調査へのご協力をお願い」をご覧ください。

研究部では、下の観察のように、ある程度まとまった報告を扱いたいと考えています。身近な鳥・ツバメの危機、みなさんと一緒に対応していきましょう。その第一歩として、身近な場所での事例をご報告ください。
(川内博)

高尾山・清滝駅にツバメの巣が集中

「ミシュラン三つ星」印の高尾山は、ますます観光客が増えています。その多くが利用するケーブルカー・リフト乗り場の「清滝駅」（八王子市高尾町）には、以前からツバメの巣が多数あり、今年の6月27日に調べたところ、完成した巣が17個、そのうち使用中が6巣。造りかけ・半壊・巣あとが6か所ということがわかりました。京王線高尾山口駅でも7巣があり、2巣でヒナがいましたが、付近の商店街や人家には巣を発見できませんでした。1か所に巣が集中することは、ツバメにとって決していいことではなく、周辺に営巣適地がないことを意味していて、その場所に異変があると、一挙に渡来数が減ってしまいます。なぜ集中するにか、原因を調べていきたいと思えます。

(川内博)